

秋

**120th**  
**ANNIVERSARY**  
2008年11月 本学は  
創立120周年を迎えます  
Nara University of  
Education

**TOPICS**

写真で見る大学120年 **〈平成期〉**  
新薬師寺旧境内の発掘調査  
イメージキャラクター表彰式

**奈良教育大学への期待**

**〈特別座談会〉**  
富岡奈良県教育委員会教育長×柳澤学長

**秋**  
2008

創立120周年記念事業の記念式典の日である11月22日が、いよいよ目前に迫ってきました。「ならやま」では、数回にわたって「写真で見る大学120年」として、これまでの奈良教育大学の歩みをお伝えしてきました。そこで今回は、これからの奈良教育大学の歩みについて触れてみたいと思います。

まず最初に、120周年を迎えたこの機会に新しく制定された、奈良教育大学のイメージキャラクター「なっきょん」を簡単に紹介します。本学学生、教職員をはじめとして、OB・OGの皆さんからアイデアをいただくために広く募集したところ、大学への想いが込められた、多数のデザイン・愛称の応募がありました。

審査委員会の選考によって、キャラクターデザインを選ばせていただきました。作品制作者によると、奈良のシンボルでもある鹿をモチーフにして、教員として

「育つ」「育てる」イメージを、その角(双葉)に表現したとのこと。その姿には、ほのぼのとした優しさや芯の通った強さを漂わせています。これは、将来教員・教育者を目指す本学の学生の姿に重ねることもできます。卒業してようやく新芽になったこの双葉を、さらに成長させてほしいと願うところです。鹿の角は、成長の証として1年に一度生え替わります。将来社会に出た後も、この「なっきょん」を思い出し、初心を忘れずにいてほしいものです。(関連掲載：14ページ)

さて最近、「大学全入時代」を迎えた大学教育、国際化時代に対応した大学教育など、あらためて大学教育の質が問われるようになりました。「学士力」と称されることもあるのですが、それぞれの学部・教育目標に沿って、学生の皆さんが獲得した知識・技能を明確にし、4年間の学びの成果をより確かなものにして、とい

うものです。「知識・技能」と言いましたが、その基盤には教養豊かな人間性が涵養されているべきことは当然です。

「ならやま」でも繰り返し紹介してきたので、詳しいことは省きますが、本学では、新任教師に求められる目標資質能力基準に基づく「カリキュラム・フレームワーク(CUFFET: Curriculum Framework for Expert Teachers)」に根ざした、教員養成教育の構築に取り組んでいます。学生の皆さんが、教師としての実践的スキル、教師として自己成長できる力を、4年間の教育課程の中で確実に身につけることを目指しています。

また、文部科学省の大学教育改革の支援プログラム(GP)に、新たに3件の申請が採択されました。その中には、新しく設置された教職大学院が提案した「実習到達度を明確にした実践的指導と評価法(宮崎大学との共同申請)」、ならびに

「質の高い大学教育推進プログラム」に採択された「教員養成大学による地域教育推進プログラム」があります。前者は、教職大学院で展開されている、地域の学校での高度な教育実習の到達目標を明確にして、その評価方法を開発すること、後者は、正しい食生活や食の安全についての関心が高まっている中で、子どもたちの食教育を指導できる教員の養成のためのプログラムの開発を目指しています。

学部・大学院ともに、教育大学にとって喫緊の課題を取り上げ重点的に取り組むことにより、より充実した教育プログラムを提案したいと思います。師範学校として創立以来120年、大学における教員養成を担って60年。奈良教育大学は、名実ともに新しい時代に挑戦を続けています。

# THE PRESIDENT COLUMN

## これからの奈良教育大学



柳澤 保徳  
奈良教育大学 学長

### 3 【学長コラム】

#### これからの奈良教育大学

学長 柳澤 保徳

### 4 【特別座談会】

#### 奈良教育大学への期待

奈良県教育委員会教育長 富岡 将人  
学長 柳澤 保徳

### 6 写真で見る大学120年 その3 平成期／奈良教育大学120年の歩み

### 8 新薬師寺旧境内の発掘調査

理科教育講座 准教授 金原 正明

### 9 【ラボ・レター】

#### 児を育み母体を保護するカルシウム栄養の動態を探る 人と人の関わり合いと教育

生活科学教育講座 教授 米山 京子  
学校教育講座 准教授 出口 拓彦

### 10 【ひと・あれ・これ】

#### 知の最先端で母校を振り返る 子どもたちの笑顔は最高

東京大学東洋文化研究所 准教授 真鍋 祐子  
奈良市立図書館 司書 西 郁代

### 11 【留学生レポート】

#### 留学を振り返って 日本での留学生活

学校教育教員養成課程教育・発達基礎コース 4回生 久米 知世  
総合教育課程環境教育コース 1回生 ソ ロ ン ガ

### 12 【附属校園では】

#### 附属学校部の設置とその役割について

附属学校部長 生田 周二

#### 幼稚園 あふれる秋の自然を取り入れて

附属幼稚園 副園長 上野由利子

#### 小学校 親と教師との共同で学校づくり

附属小学校 教諭 奥本 文夫

#### 中学校 大学研究室訪問

附属中学校 三年学年主任 奥原 牧

### 14 イメージキャラクター「なっきょん」誕生!

### 15 【課外活動】

#### 〈硬式野球部〉楽しむことを大切に 〈劇団キラキラ座〉輝こう

主将 寺井 宏文  
部長 糸井 茂裕

### 16 【大学の仲間たち】

#### ヤマトシジミ

自然環境教育センター長 前田喜四雄

### 表紙紹介

## 精密日時計

古代エジプトでは、太陽の動きを「時」の基準としていたとのこと。無論、現在の私たちの生活も太陽暦、つまりは太陽の動きを生活の時間軸に置き、日の出とともに新たな1日を迎えるという、古代と変わることなく、太陽に「時」の依存を続けています。

本学キャンパス内にある附属小学校のグラウンドの一角では、精巧な造りの日時計が日々時を刻んでいます。日の出とともに、その輝く盤面にくっきりとした影を伸ばし、私たちに正確な時間を提供してくれています。

この精密日時計は、昭和41年2月、当時のPTA会長・河合庄治氏から寄贈されたもので、当時の附属小学校にて教鞭をとっていた理科教師らによって、現在の場所に設置され、児童たちの教材として活用を始めたとのこと。

さて、本学は今年、明治21年(1888年)の奈良県尋常師範学校創立から数えて120周年を迎えます。今年の創立記念日までに、太陽は新たな1日の始まりを告げるべく、43,830回も昇っては本学を照らし続けてきています。偉大なる太陽に、この120年はどう映ったのでしょうか。

【解説】 企画・広報室

表紙題字 名誉教授

池田桂鳳

# 特別座談会 奈良教育大学への期待



〈開催日〉平成20年10月8日(水)  
〈場所〉奈良教育大学 学長室

来る11月22日の本学創立120周年記念式典の際、併せて開催するシンポジウムのテーマ『奈良教育大学への期待』に合わせ、富岡奈良県教育委員会教育長と柳澤学長が対談を行い、同テーマについて語っていただきました。

▼本日は大変お忙しい中、お時間をとっていただきありがとうございます。早速ですが、昨今の教育現場における課題について、お話しいただけますでしょうか。

富岡教育長 あえて言うならば、子どもたちが生活習慣を身につけていないことや、規範意識が薄いことでしょうか。根っこところに、勉強が好きでないというのがあって、このような状況が続けば、体力の低下、正義感の欠如、これらが引き金となって、学力低下につながっていくことに危機感を持っています。今すぐにでも対応策に取り組む必要があると考えています。

また、子どもとコミュニケーションがうまくとれない先生が増えています。先生自身が生活してきた環境にもよると思いますが、少人数の中では話ができても、大勢の前ではうまく話せなくなる。教員を志すに当たって、これらの背景を自分なりに克服しているつもりでも、いざトラブルが起ってしまった時には殻に入ってしまうなど、前に進めなくなる。今は、学校の中で教員の年齢構成に空白の年代が生じていて、身近に相談できる教員が少なくなっているという構造的な問題も起こっています。

柳澤学長 教師と子ども、教師と教師、教師と保護者……といった人と人との関係を積極的に構築していく力は、教師の能力としてとても重要ですね。子どもを理解し、さらに保護者や同僚たちとも相互に対応できる。昨今の複雑な社会情勢の中、これらの必要な力量を身につけることは、教員にとってとても難しいことです。

本学では、学部生・大学院生を対象に、平成17年度から奈良市内の小学校と連携して、「鍵の場面における「対応力」を備えた教員の養成(文部科学省「教員養成G.P.採択事業」)の教育プログラムを開発提供しています。つまり、さきから返すことが、教職大学院への新たな現職教員の派遣を呼ぶことに繋がっていると思います。これら教員が個人として、さらに組織の一員として、学校改善に寄与するものであることが必要ですね。

また、本学の教職大学院では、同時にストレートマスターも学んでいます。これら学生にとって、現職教員と協働の学びを形成できることは、コミュニケーション能力や子ども理解などにおいて、違う視点からの力量が得られるなど、大きなメリットです。2年後、第一期生にご期待いただきたいと思えます。

▼奈良県教育委員会と大学との新たな連携について、お聞かせください。

富岡教育長 教師は、社会情勢などによって、絶えず新たな課題を負うことが責務となつていきます。現実には、児童生徒や保護者をはじめ、いろんな人との関わりにおいて生きた教育をし、責任を取らなければなりません。このような状況の中で求める教師像があり、大学との連携において互いにこれを補完しながら、教育の充実発展を実現していきたいですね。

柳澤学長 奈良にある大学として、入試において地域推薦枠を増やす方向で検討を進めています。奈良県内で教員を目指す、意欲ある地元高校生をより多く受け入れ、輩出していくことで、地域貢献を果たしたいと考えています。

また、教職大学院の実務家教員として、継続して有能な方を迎える一方で、大学教員の派遣、教員免許更新講習における連携実施など、今後も引き続き連携を強めていきたいと思います。

▼本日はご多忙の中ありがとうございました。

子どもたちに、現場の先生がその「鍵的場面(教育指導上、鍵となる重要な場面)」において、授業中や放課後にどのように指導しているのかを問近に見て、その背景なども把握する。今の教育実習ではどうしても授業をするだけに終始してしまふ。そんな中、このプログラムを通して「対応力」や「表現力」を身に付け、自らの実践を知識・知恵として獲得してほしいと願っています。

▼教師にはどのような力が必要で、またそれに対してどのような方策をお考えですか？

富岡教育長 コミュニケーション不足の背景には、少子化の影響や家庭環境、地域環境の変化など、奥の深い問題がありますね。教師の方だけに「打たれ強く、しなやかに受け止め、バネのように跳ね返す力を持つてほしい」と言うのは酷かな？それでも、子どもたちのためにも、持つてもらわなくては困るのです。

一つの方策として、実務経験3〜5年の教師を核に、教員を目指す大学生にも、リクルーター、就



職活動の二環として参加できるプログラムを、できるだけ早く実施したいと構想しています。この中で先輩の悩みを聴き、あるいは相談できる道筋を学生の時からつける。そんなつながりの仕組みをつくりたいと考えています。

柳澤学長 地域の教育力を高めるのに、教員養成大学がどのように関わるかは重要な課題です。本学では、新任教員として採用された後、少なくとも5年間は大学がサポートしていこうと考えています。就職支援室を中心に、就職先へのヒアリングなどを通して、新任教員がどこで困っているのかを知り、これを新たな教育や就職支援に生かしていく……。

学校派遣ボランティアとして、本学からも多くの学生が自ら参加していますが、この活動を通して何を体験し、どのような力をつけたのかをしっかりと見極めていくことも必要だと考えています。

▼それでは、教員を目指す学生たちに求めるものは、どのようなことでしょうか？

富岡教育長 大学が座学的になるのは当然で、得た知識を持って現場に当たっていただくのが基本ですね。大学4年間で、スーパーティーチャーになるのは難しいですね。当面、大量採用時代に入ってくる奈良県において、質の高い教員をいかに確保していくかが我々の課題です。

学校現場にできるだけ早い段階から入り、いろんな学校を体験してもらいたいですね。そのことで現場を知り、現場が求めている教員の姿を知ってほしいのです。

柳澤学長 今後の採用状況次第では、本学も国立大学として、教員養成に関わっていることの意味が問われることになりそうです。近隣の教員養成大学のほか、私立大学が台頭するという競争的な環境のもと、危機的意識を持って、教員としての質を高めることは重要であると考えています。このような状況の中、本学では今春から新たに教職大学院を設置し、高度専門職業人として、いわゆる「教師のプロフェッショナル」を養成することになりました。

▼教職大学院に対するご期待などあればお聞かせください。

富岡教育長 現場の教師には、実務経験上の課題を持って、教職大学院で積極的に学んでほしいと思っています。教職大学院での学びを通して、「中学校・小学校・県立学校でこんな問題がある」という知識を全国的ネットワークで得てもらって、それを現場にフィードバックする。将来は世代を越えて、教育を担って立ってほしいと願っています。

柳澤学長 教職大学院での学びの成果を示し、お

## Profile



富岡 将人(とみおか まさと)  
昭和26年生まれ。愛知大学大学院修了。昭和54年、奈良県採用。平成12年、総務部新行財政システム推進室長。平成15年、教育委員会事務局教職員課長。平成18年、同教育次長。平成20年から教育委員会教育長。



柳澤 保徳(やなぎさわ やすのり)  
昭和23年生まれ。大阪大学大学院修了。昭和49年、奈良教育大学教育学部助手。昭和57年、同助教授。平成8年、同教授。平成13年、同大副学長。平成15年から同学長。

# 写真で見る 大学120年 その3 平成期

明治21（1888）年7月1日に創設された本学は、今年120周年を迎え、11月22日には、記念式典が行われます。明治期、大正・昭和期、平成期の3回に分けて、「写真で見る大学120年」をお届けしています。今回はその最終回、平成期です。

昭和58（1983）年に、大学院教育学研究科（修士課程）が設置されます。4月25日に、42名の入学者を迎え、入学式が行われました。平成20年3月までに、1,324名の修了生が教育界を中心に巣立っていきました。また、昭和63年には創立百周年を迎え、11月18日に記念式典が行われました。

平成2年には情報処理センターが設置され、インターネットの時代へと社会は大きく変わっていきます。翌3年には、昭和52年に設置された附属教育学センターが改組され、附属教育実践研究指導センターが設置されます。また、平成12年4月には、附属教育実践センターへの改組設置となり、教育の実践・教育の現場との連携をさらに深めていきます。また、平成6年には附属自然環境教育センター（写真③）が設置されます。

平成の時代は、まさに「改組」の時代。社会の変化やニーズに対して、大学が迅速に対応しようとする時代です。

平成7年に特別教科（理科）教員養成課程が廃止され、総合文化科学課程が設置されたのははじめとして、4年後の平成11年には、小学校・中学校・幼稚園・養護学校・特別教科（書道）の5つの教員養成課程が廃止され、学校教育教員養成課程が設置されます。総合文化科学課程も廃止され、総合教育課程が設置されます。

そして、平成16年4月1日に、国立大学は法人化を迎え、本学は「国立大学法人奈良教育大学」となります。この年、大学院（教育学研究科）は改組を行い、教育実践開発専攻が設置されます。平成18年3月には、附属図書館・情報処理センター・教育資料館（平成4年設置）が統合され、学術情報研究センター（写真②）が設置されます。また、特別支援教育研究センターがスタートします。

平成18年4月、教育学部二課程の再編が行われ、学校教育教員養成課程の定員が50名の増員となります。また、平成20年4月には、修士課程が改組されるとともに、大学院教育学研究科専門職学位課程（教職大学院）（写真①）が設置されます。

教育大学の使命が問われ始めた平成の時代、それに対して、本学としての成果回答が着実に蓄積されていく姿を見ることのできる平成の20年、本学は120周年という節目の年を迎えることになりました。



①



②



③



入学式 2008年度



オープンキャンパス 2008年度夏



卒業式 2007年度

## 奈良教育大学120年の歩み

- 明治7年6月4日 教員伝習所として興福寺内に「寧楽書院」を創設
- 明治8年3月1日 伝習所を奈良（小学）師範学校と改称
- 明治21年7月31日 奈良県尋常師範学校を創設し、校舎は奈良町大字登大路23番地の公園地借用（同年11月18日開校式）
- 明治22年1月24日 奈良県尋常師範学校附属小学校を設置
- 明治31年4月1日 師範教育令により、奈良県尋常師範学校を奈良県師範学校と改称
- 明治38年4月1日 奈良県女子師範学校を創設（奈良県師範学校女子部を廃止）
- 昭和2年4月6日 奈良県女子師範学校附属小学校後援会昭徳幼稚園を設置
- 昭和18年4月1日 師範教育令の改正により、奈良県師範学校及び奈良県女子師範学校が官立に移管、合併し、奈良師範学校と改称
- 昭和19年4月1日 奈良県青年師範学校教員養成所及び青年学校教員養成所臨時養成科が官立に移管、合併し、奈良青年師範学校と改称
- 昭和22年4月1日 奈良師範学校附属中学校を設置
- 昭和24年5月31日 国立学校設置法の公布により、奈良師範学校及び奈良青年師範学校を包括し、奈良学芸大学を設置
- 昭和25年4月1日 医学進学課程（理科内類）を設置（昭31・3廃止）
- 昭和27年4月1日 課程を第1部（小学校課程）第2部（中学校課程）に区分
- 昭和33年1月20日 特別教科（書道）教員養成課程を設置
- 昭和33年10月10日 大学が米軍キャンプ奈良C地区（現在地・高畑町）に移転
- 昭和36年11月8日 技術科を設置
- 昭和37年4月1日 専攻科（教育専攻）を設置
- 昭和40年4月1日 専攻科（書道専攻）を設置
- 昭和41年4月1日 国立学校設置法の一部を改正する法律（昭和41年法律第48号）により、奈良教育大学と改称
- 養護学校教員養成課程を設置
- 特別教科（理科）教員養成課程を設置
- 幼稚園教員養成課程を設置
- 保健管理センターを設置
- 昭和42年4月1日 附属教育学センターを設置
- 昭和44年4月1日 臨時教員養成課程として情緒障害教育教員養成課程（1年課程）を設置
- 昭和48年4月12日 大学院教育学研究科（修士課程）を設置（専攻科を廃止）
- 昭和52年4月18日 創立100周年記念式典を挙行政報処理センターを設置
- 昭和55年4月1日 附属教育実践指導センターを設置（附属教育学センターの改組）
- 昭和58年4月1日 情報処理センターを設置
- 平成2年6月8日 附属教育実践指導センターを設置（附属教育学センターの改組）
- 平成3年4月12日 特殊教育特別専攻科情緒障害教育専攻を設置
- 平成4年4月1日 教育資料館を設置
- 平成4年4月16日 附属自然環境教育センターを設置（附属農場、附属演習林の改組）
- 平成6年6月24日 総合文化科学課程を設置
- 平成7年4月1日 学校教育教員養成課程を設置（総合文化科学課程を廃止）
- 平成11年4月1日 総合文化科学課程を設置（総合文化科学課程を廃止）
- 平成12年4月1日 附属教育実践総合センターを設置（附属教育実践指導センターの改組）
- 平成13年4月1日 副学長の設置／学生部の事務局への一元化
- 平成16年4月1日 国立大学法人法の公布により国立大学法人奈良教育大学を設置／大学院教育学研究科修士課程を改組
- 平成18年3月24日 学術情報研究センターを設置（附属図書館、情報処理センター、教育資料館の改組）
- 平成18年4月1日 総合教育課程を再編
- 平成19年3月23日 特別支援教育研究センターを設置
- 平成19年4月1日 特殊教育特別専攻科情緒障害教育専攻を特別支援教育特別専攻科情緒障害・発達障害教育専攻に名称変更
- 平成20年4月1日 大学院教育学研究科専門職学位課程（教職大学院）を設置／大学院教育学研究科修士課程を改組



# 新薬師寺旧境内の発掘調査

理科教育講座 准教授  
金原 正明



新薬師寺旧境内基壇石組み最下段の凝灰岩（奈良～平安時代）

奈良教育大学の構内には、主として3つの遺跡が存在します。古いものから、吉備真備の墓という伝承のある吉備塚古墳、新薬師寺の旧境内、陸軍聯隊跡と続きますが、中でも最も不明なのは新薬師寺旧境内です。「東大寺要録」によれば、天平19年（747年）に聖武天皇の病氣平癒を祈願して光明皇后が建立し、七仏薬師像を造立します。七仏薬師堂（金堂）や東西両塔などの七堂伽藍が並ぶ、四町にも及ぶ大寺院でした。位置や伽藍配置は詳細には伝わっていませんが、正倉院に所蔵されていた「東大寺山堺四至図」（国宝）では法華堂（三月堂）の真南に位置することから、現存する新薬師寺を東限と考えて、奈良教育大学のキャンパスの東半分強が寺地に含まれると推定されています。

七仏薬師堂（金堂）には、七仏薬師や脇侍、十二神将など計33体の仏像が安置され、南都最大で九間もあつたと考えられています。「東大寺要録」によれば、応和2年（962年）の東大寺の南大門が倒壊した台風で、新薬師寺は金堂以下の主要堂宇が転倒倒壊し、以後往時の規模に戻ることはありませんでした。明治になって陸軍聯隊が新設された折、大きく改変整地されたため、さらに不明となりました。陸軍聯隊も軍機密であるため、建物の配置図すら残っていません。

今回の調査（執筆時は現在進行形）は、特別支援学級校舎の改築に伴うもので、奈良教育大学の東北隅に位置します。上層には、陸軍聯隊の明治の将校集



陸軍聯隊跡将校集会所煉瓦積み基礎（明治時代）

会所と考えられる建物の6段積みの煉瓦造基礎が現われ、束柱の柱穴が密に並び、重厚な木造建築があつたことがうかがえます。その下は耕作土が堆積し、奈良時代の布目瓦が多量に出土するものの、開墾により大きく開削されており、古代の遺構を特定しにくい状況でした。奇しくも本稿を脱稿しかけた時に、基壇の石組みの最下段の凝灰岩がわずかに残存しているのが見つかり、東西40m以上の規模が復元され、調査区の北半に、七仏薬師堂（金堂）に相当する大きさの堂宇が建てていたことが明らかになりました。

## 児を育み母体を保護するカルシウム 栄養の動態を探る



生活科学教育講座 教授  
米山 京子

### ■ 妊娠・授乳期の栄養

「メタボ」の横行する今日、我が国でなお不足している栄養素はカルシウムです。カルシウムは胎児・乳児の発育の源であり、妊娠・授乳期には需要が高まります。古くは「子どもを一人産むごとに歯を一本ずつ失う」と言われましたが（今は少子化ですが無縁ではありません）、これに対する科学的なデータはほとんど見られません。その理由は、骨のミネラル量を把握する従来の測定機器は、少量とは言え放射線被爆があるため、妊婦や授乳婦には利用できなかったからです。超音波骨密度測定装置が開発されて以来、私はそれを武器に母子ともに望ましい栄養状態を明らかにするために、血液や尿中の骨代謝マーカーと併せて、妊娠と授乳期、授乳後の母子間のカルシウムの動態を探っております。妊娠・授乳期は骨代謝が亢進（こうしん）しているため、栄養摂取状況によっては、逆に出産・授乳が逆に骨密度を高めるチャンスともなるのです。



最新装置による骨密度測定

一定条件を操作できる動物実験では、短

期間に正確なデータが得られますが、その適用はあくまでも動物の範囲内です。ヒトを対象とした疫学研究では、通常の生活条件下で得られた個人差が重要な情報源となるため、何を指標とし、いかに客観性を保つか、対象者を増やすかが鍵となります。一例一例データを蓄積していく過程は、とても時間や労力を要し退屈なものです。得られた成果は確実なエビデンスとなり、直接ヒトへの適用を可能にします。

### ■ 教育学部における本研究の意義

今日の若者の生活の乱れやダイエツト指向は、本学学生も決して例外ではないことを日頃痛感します。義務教育教員になる者は、特に自らの生活管理能力も高く要求され、それが備わってこそ子どもを理解することができ、教育に携われるはずで。研究で得られた成果を授業の生きた教材とし、学生自らの生活行動の変容と実践に繋がるよう取り組んでおります。

## 人と人の関わり合いと教育



学校教育講座 准教授  
出口 拓彦

### ■ 教室内の人間関係

学校での学習は、基本的には「先生と子ども」「子どもと子ども」という、人と人の相互作用を通して行われます。そして、「けんかをしてしまう仲直りができる友だち」「何でも話を聞いてくれる先生」「怒るとちょっと怖い先生」など、そこにはさまざまな人々との関係があります。

このような教室内の人間関係が、学習活動にどのような影響を与えるのかについて、心理学的な視点から研究しています。さらに、研究で得られた知見を基にして、いろいろな授業案を作成しています。現在は、特に「協同学習」や「授業中の私語」に関心を持っています。

### ■ 私語研究の面白さ

「授業中の私語」が持つ（学問的な）面白さは、「多くの学生は『私語はいけないこと』と考えているにも関わらず、私語をしてしまっている」というところにあると思います。なぜ人は、「してはいけない」と考えていることを「してしまう」のでしょうか？

この問いに対して、学生が持つ「共感性」や「大学への適応」といった事柄に着目し

### ■ ゼミについて

今年度の4月に赴任したため、まだ4年生はおらず、3年生が2人だけの小規模なゼミです。基本的に、学生が持っている興味・関心に基づいた教育・指導ができればと考えています。今は、大学祭での発表を目標に、藤田先生のゼミ生と協同で「ユーモア」について調べています。自分の専門分野とは多少異なるテーマですが、なかなか興味深い事項でもあり、学生と一緒に勉強・研究していければと考えています。

つつ、質問紙調査やコンピュータ・シミュレーションによって考察しています。



ゼミの風景

# 知の最先端で 母校を振り返る

東京大学東洋文化研究所准教授  
真鍋 祐子  
(昭和61年3月 教育学部卒業)

## 「研究」という私の仕事

東京大学東洋文化研究所より朝鮮研究の准教授という思いがけない打診を受け、平成18年春に着任しました。その職責は「研究」すること。学内のいづれかの大学院でゼミを最低一つ担当するほかは教壇に立つ義務がなく、非常に恵まれた研究環境です。

## 朝鮮研究を志したきっかけ

大学入学直後の昭和57年夏、中国大陸への「進出」か「侵略」かの記述をめぐって教科書問題が起こりました。ならばアジアの国々ではどんな教科書で歴史を学んでいるのだろうか？そんな教育大生ならではの好奇心から韓国語の独学を始めたのが二回生のときです。やがて歴史教育への関心は韓国の文化や社会そのものへの関心に転じ、その道の研究者を志すようになりました。

いつも大学院進学のことしか念頭にならないう学生でしたが、先生方も友人たちもそんな私を許容し、応援してくれたことに感謝しています。

## 奈良教育大学で学んだこと

誰に、何を、どう伝えるか。そのことが常に「小学生」を設定値として考え、議論し、教材研究等での演習を通じて問われ続けた点でした。この軸足さえブレなければ、大学の講義、学会発表から論著の執筆に至るまで、その効力は万般にわたります。狙いを絞って授業を論理的に組み立てていく学習指導案作りも、発問、比喩、時には雑談等も駆使し、相手の視線から伝えるべきことを伝えるための形式として、これまでの研究活動に生かされてきたと感じます。知の最先端に行く人々と身近に接する日常は刺激に満ちている反面、常に世界水準の成果を求められる職場環境は自分の身の丈に合わないのでは？と悩むことも度々です。でも母校で学んだ「伝え方の極意」は私だけの強みとして「奈良教育大学卒」の履歴に密かな誇りを抱きながら、私も知の最先端で奮闘していきたいと考えています。



研究所主催公開講座での講演

# ひと・あれ・これ

## 子どもたちの 笑顔は最高

奈良市立図書館 司書  
西 郁代  
(平成15年3月 教育学部卒)

## 本と子どもたち

児童室にいますと、毎日いろんな子どもたちに出会えます。「こんな本見つけた」と教えてくれる子がいたら、関連づけて「こんな本はどう？」と話しかけます。一緒に座って読んだりもします。「おはなし！おはなし！」と言って、おはなしの時間を楽しみにしてやってくる子がいたり、探していた本を見つけて「あつた！」とうれしそうに叫んでいる子がいたり、どの子どもたちも顔が輝いています。「前に読んだ本で、書名はわからないけれど、こういうお話の本はありますか？」という問い合わせもよくあります。少ない手がかりの中から、その本を見つけ出し、お伝えできた時はうれしいものです。たった本一冊で、こんなにも盛り上がれるなんて、素晴らしいと思うことが多々あります。

## 夢がかなって

小学校から、子どもたちが図書館見学に来られます。反対に、こちらから小学校を訪問することもあります。紹介した



## 留学生レポート

# 留学を振り返って

学校教育教員養成課程教育・発達基礎コース 4回生

久米 知世

from USA

## アメリカの授業

大学では、さすがアメリカだなあと感じる授業がばかりでした。アメリカ人20人くらいに話しかけてアンケートをとり、母国との違いを述べるといったエッセイの課題や、動物保護施設やホームレスの方のための施設での食事配膳等のボランティアの授業を経験しました。美術の授業では、2つの映画のワンシーンを構成して新たな場面を描いたり、自分の部屋を描いたり、課題のすべてが魅力的で大変楽しかったです。批評会では自分の考えをクラスメイトに説明し、それに対し、何人もわたったことのない感覚を覚えました。もちろん、こんな風に授業を楽しむためには、日々の会話での苦勞や、多過ぎ大き過ぎるカルチャーショックを乗り越えた過程を抜かすことはできません。今思うと日常生活でさえも、私を成長させてくれた授業のような学びの場だったといえます。

## 新しい目標

今、私は二つの国の好きなところ、合わないところを受け止めて、自分なりの過ごし方を探しています。どちらのいいところもこれからの自分に生かし、素敵な大人になつていきたいと思えます。また、留学中自分が困っていたことやその時の心境を忘れずに、日本にいる外国人の方々にも少しでも協力していければと思っています。下級生の皆さんも、自分から困難なことに挑戦して、新しい目標を見つけてほしいと思います。



パーティーの様子(筆者上左端)

## 留学生レポート

# 日本での留学生活

総合教育課程環境教育コース 1回生

ソロンガ

from China

桜が咲き、いつもの春と変わりのない2005年の4月。寒い冬が過ぎて、暖かく美しい春を迎えた瞬間でもあり、皆は桜の美しさを楽しんでいたかも知れませんが、来日したばかりの私には、異国での寂しさ、寒さが何とも言えないほど伝わってきました。「これか何が起るのだろう」という不安を感じながら、日本での留学生活が始まりました。それから日本語の勉強に励み、少しずつ上達しながら、目標を目指して頑張るようになった私。頑張った甲斐あって、半年前に奈良教育大学に受かり、今は環境教育コースで地域環境について学んでいます。もちろん、大学ともなると勉強する内容も深くなり、範囲も広がります。日本語の勉強は当然ですが、自分の専修の科目にも力を入れ、日本人学生についていかなければならない、ということには十分覚悟していました。しかし、思いも寄らなかったのは、留学生だけの環境から日本人学生の中に入ったことでした。簡単な自己紹介から始まり、まだ全然慣れない

いうちに合宿で吉野山へ行くことになり、桜の名所が満開の時期だったのに、私にはそれを楽しむ気持ちより、「たった一人の留学生だ」という思いの方が強かったのです。心配と不安でどうしても表情が硬くなる私に、日本人の学生たちは「留学生の方ですか」「お国は」といろいろ質問をしてくれて、皆と自然にコミュニケーションが取れるようになりました。そればかりではなく、山一杯の桜の美しさもさることながら、咲いてすぐ散ってしまう短い命に心を打たれ、なんとなく力強くなった気がします。今までの半年間は、私にとって大学生活に慣れるための期間だと言っても良いと思います。わからないことや困ったことにもありますが、先生方やクラスメイトたちに助けってもらい、そのおかげで今、大学生活を楽しんでいます。



神戸旅行にて友人たちと(筆者左端)

勉強以外にも、学校側のいろいろな留学生イベントにも参加し、みんなと船に乗ったり、工場見学に行ったりして、本からでは学ぶことができない幅広い知識に触れることができ、貴重な体験になったと思います。来日してから3年が過ぎましたが、振り返ってみるとあつという間でした。嬉しいこともあれば、辛いこともありました。しかし、この3年間は私のかけがえのない経験となり、人生を豊かにしただけではなく、私を成長させて、強くしてくれました。ここまで進むことができ、今、感謝の気持ちで大学生活を楽しんで過ごしています。これから目標のため、「雨にも負けず、風にも負けず」という言葉を座右の銘にして、頑張りたいと思います。

附属学校部

# 附属学校部の設置とその役割について

附属学校部長 生田 周二

## 附属学校部のミッション

本年度四月から発足した附属学校部のミッションは、大学の方針の下に、附属学校の三つの方向性に沿って組織的に運営を行い、機能の充実と連携に努め、教育課題に対応していくことです。

三つの方向性とは、研究連携機能・地域のモデル校機能・教育実習機能を指し、本学の中期目標では次のように述べられています。

(1)「幼稚園・小学校・中学校教育の在り方を、大学との共同研究のもとに理論と実践の両面から研究し、これからの時代にふさわしい教育の構築を目指す」

(2)「実践及び実践開発の成果を広く外部の学校関係者に公開する」

(3)「大学学部と連携し、教育実習プログラムによる、より質の高い実習を行う」

## 附属学校部の運営

附属学校部には、運営を統括する附属学校部長、運営の在り方について審議する運営委員会が置かれ、月1回の会議を開いています。ここでは、「管理・運営」、「研究連携」、「教育課程・教育実習」、「広報・地域連携・全国附属学校連盟」の4つに

項目に分けて議論しています。

今後の展望と附属学校の新たな使命を見通しつつ、より機能的に取り組みや議論が進められるように、附属学校教員と大学教職員とで知恵を絞り、マネージメントを行っていくのが附属学校部だと考えます。

## 大学の中での位置

三附属学校園に通っている幼児・児童・生徒数は、幼稚園145名・小学校626名・中学校485名の計1,256名です(2008年4月時点)。この数字は、大学・大学院の学生数約1,300名に匹敵します。

このように、大学において大きな位置を占める附属学校の三校園は、相互の連携ならびに大学との研究・教育連携を目指しています。今後とも、附属学校の教育の充実発展のためにご協力をお願いいたします。

幼稚園

# あふれる秋の自然を取り入れて

附属幼稚園副園長 上野 由利子

## トンボとり

坂の上にある附属幼稚園は、空が広く感じられます。登園する子どもたちは浮かぶ雲を見つけ、「アヒルさんみたい」などと名前をつけます。そんな幼稚園の特色の一つに、豊かな自然を生かした保育が挙げられます。運動場の真ん中にある丸芝生の上には、多い時には10匹以上のアキアカネが手の届く所を飛び回ります。子どもたちは、ネットを使い、針金を通したり糸で袋状にかがったりして虫取り網を作り、トンボとりを楽しみます。初めはなかなか思うように捕れないけれど、そのうちにコツをつかんだトンボとり名人が現れます。虫かごいっぱい集めたトンボは、帰る頃には逃がしてやるのですが、虫眼鏡でトンボを観察して絵を描く子どももいます。

## 草花の色水づくり

草花や木の実を使って、色水づくりをしています。ヨウシュヤマゴボウやマリゴールド、オシロイバナ、黄花コスモス、つゆ草などを見つけては、棒でつぶしたりすり鉢ですったりして、色を出します。透明容器に入れて、色合いや濃さを比べ



トンボとり

て楽しんでいきます。鮮やかな紫色をしたムラサキキブの実は、どんなに細かくつぶしても期待の色が出ず、実をそのまま浮かべて一緒に並べていました。

## 秋の自然を活用した遊び

ジュズダマも黒光りする実をたくさんつけます。針金に通してネットレスにしたり、容器に入れてマラカス楽器を作ったりします。どんぐりの実は、軸をつけてコマにしたり、パチンコ遊びの玉になったりします。キンモクセイの花を集めておい袋もできました。

秋の自然を活用した遊びを楽しみながら、感性を豊かにするとともに、科学への興味も育つてほしいと考えています。

小学校

# 親と教師との共同で学校づくり

附属小学校教諭 奥本 文夫

## PTA活動を「教育を語る場」に

子どもの健やかな成長には、その教育に直接関わる教職員と保護者との意思の疎通が不可欠です。そこで本校では年一回、「PTA研究会」を開催しています。昨年度は「半日だけのタイムスリップ」と銘打って、八教科別の分科会を持ちました。教員が『先生』、保護者が『生徒』という授業の形態で、教科教育で大事にしていることを示しました。今年校長の生田周二先生に「今、子どもたちは」という講演をお願いしています。また、クラス懇談会や文化講座・PTA実行委員会などで、子育てについての具体的な話し合いを恒常的に行っています。これらが、教職員の教育理念と保護者の教育要求との合意を広げる場になることを願っています。



## 子どもの安全を守る取り組み

子どもの安全を守る日常的な取り組みを、保護者・地域の人たちと一緒に進めています。PTAの生活安全部や保健委員会が中心になり、次のような活動を行っています。

①不審者による犯罪から守るために、安全マップ作り、「あすか子供安全ネットワーク」と合同での一斉下校会、また全

庭に腕章と校内に入る名札を配布しています。

②事故や怪我から守るために、バスの乗り方を含めた交通安全指導、校内の危険箇所の点検等を行っています。



③健康な生活や食の安全に関しては、養護教諭・栄養教諭と保健委員会で緻密な取り組みがなされています。給食の食材についての吟味等は特に厳しくしています。

## PTA活動は一人一役で (ボランティア活動)

「役員・委員の負担が軽く、多くの人がか動くPTA活動」が望ましいと考えています。そこで、すべての親に義務ではなく、「我が子の通う学校のために何かできること」を家庭の生活スタイルに合わせてやってもらっています。

①ベルマーク運動の呼びかけ及び集計作業への参加。  
②休日に親子で取り組む行事を企画・運営する母体として『たかまどの会』があります。現在、世話人は男性十余名(保護者OB2名)です。体育大会等の学校行事での安全管理をはじめ、「親子プール」「正月

中学校

# 大学研究室訪問

附属中学校三年学年主任 奥原 牧

## 附中生、学問の世界に触れる

本校の三年生が、総合的な学習の一つとして取り組んでいる大学研究室訪問は、七年目を迎えることになりました。この間に、各協力をいただきました大学の先生方、各関係の方々には、感謝の気持ちでいっぱいです。

この研究室訪問は、「学問の世界に触れ、学びの方法を知る」というテーマで、約一六〇名が研究室を訪問させていただきました。専門分野のお話や研究の道に入られた経緯などを伺いながら、学ぶことの意味やその方法について知り、学問の世界の深さと広がりを知るとともに、学ぶことから得られる充実感や喜びについて知るところをねらいとしています。

研究室訪問を経験したある生徒は、「ゾウリムシは、ある意味全能の細胞というのを聞いて、肉眼で見えるか見えないかぐらいの小さな微生物なのに、人よりすごいところがあるんだと思うと、人もちっぽけな存在に思えてきました。」など新鮮な驚きを述べていました。この研究室訪問を通して、自分たちの知らない世界に触れ、知的好奇心が刺激された生徒や、もの見方が少し変わったという生徒もいます。大学の附属中学校ならではの取

り組みに、生徒はもちろんのこと、保護者や教員も大変喜んでいきます。

## 「卒業研究」に活かそう、未来の研究者たち

現在本校の三年生は、自分が興味・関心を持ったことをテーマにした「卒業研究」に取り組んでいます。今回の研究室訪問で、大学の先生方からいただいた示唆や刺激を、生徒個々の「卒業研究」の充実と完成という形で反映させているところです。また、自分の進路を考えるに当たって、強い影響を受けた生徒もいました。大学の先生方の研究に傾ける情熱に触発され、「研究の道」という進路に興味を持った生徒もいるようです。今回の研究室

訪問に参加した「附中生」の中から、未来の研究者が生まれることを期待します。最後になりましたが、大学と附属中学校が連携した「研究室訪問」の取り組みが長く継続することを強く願っています。



研究室訪問



# イメージキャラクター「なつきよん」誕生!

## 奈良教育大学に ゆるキャラ鹿が誕生!?

今年創立120周年を迎えるのを機に、広く多くの方々に奈良教育大学を知ってもらい、同時に大学関係者の大学へのアイデンティティを高めてもらうべく、イメージキャラクターの公募を行ったところ、39点のキャラクター作品が集まりました。応募作でやはり多かったのが、鹿をモチーフにした作品。その中でも、卒業生・萩田菜穂子さんが制作した、角を新芽にアレンジしたユニークな作品が選考委員の注目を集め、今回の最優秀作品に選ばれました。

キャラクター決定後には愛称の募集を行い、30点の愛称候補が集ま



最優秀作品受賞者 萩田菜穂子さん

り、在学生の間でよく使われている本学の略称「奈教（なきょう）」の響きに由来した「なつきよん」が愛称に決定しました。

10月1日には、「なつきよん」の披露を兼ねて、奈良教育大学イメージキャラクター表彰式を挙行しました。

式には、柳澤学長をはじめとする学内関係者以外に、新聞社やテレビ局などの報道機関が集まり、話題性の高さをうかがわれました。

〈受賞者は次の通り〉

○デザイン

最優秀賞

萩田菜穂子さん（平成19年度教育学部卒）

優秀賞

坂本恵己さん（平成14年度教育学部卒）

優秀賞

武知真美さん（平成19年度教育学部卒）

優秀賞

土屋可奈子さん（教育学部4年）

優秀賞

鶴 真美さん（教育学部3年）

○愛称

石川 康恵さん（大学院2年）

松原 正之さん（教育学部4年）

近藤 花梨さん（教育学部2年）

在学中、美術教育を専攻していた萩田さんは、「自分が学生時代に専攻していた美術の分野で受賞したことはすごく光栄。なつきよんは自分の学びやである奈良教育大学を意識して考案した。（デザイン）アイデアが浮かぶのはそんなに時間がかからなかった。なつきよんは、大人でも子どもでもなく、男でも女でもない。表情に丸みをもたせたのは、シャープな顔立ちよりふっくらした方が、

広い世代に受け入れられると感じたから。これから、在学生の皆さんや奈良教育大学に関わるすべての方と共に、のびのびと育っていくことを期待している」となつきよん誕生の秘話を披露し、今後の活躍を期待していた。

今後なつきよんは、奈良教育大学の広報リーダーとして、オープンキャンパスや大学行事などで活躍していく予定です。また、早くから問い合わせがあるなつきよんグッズについても、ストラップをはじめこれから拡大していきます。これからも、奈良教育大学イメージキャラクター「なつきよん」を応援してください!



着ぐるみも登場



表彰式

## 硬式 野球部

### 楽しむことを大切に

主将 寺井 宏文

硬式野球部は現在、プレイヤーが1回生7人・2回生12人・3回生7人・4回生6人の計32人、マネージャー3人で活動しています。練習は月・水・木・土の週4日と少ないながらも、主将を中心に練習メニューを考え、日々取り組んでいます。

活動の中心となるのは春と秋に行われるリーグ戦です。その他には、夏休みに近畿国立大学体育大会と遠征、合宿、秋には近畿学生野球連盟の新人戦、奈良県知事杯、和歌山大学との定期戦などの活動をしています。

リーグは近畿学生野球連盟に所属しており、昨年の春季リーグにおいてII部優勝、そして本学野球部史上二度目のI部リーグ昇格を果たしました。その後の秋季リーグでは6位となりませんが、入替戦の末、何とかI部に残留することができました。そして、I部で迎える2季目のリーグとなった今年の春季リーグにおいては、I部昇格後初めての勝ち点となる勝ち点1を取り、5位でI部残留を決めることができました。

私たちは、他の大学のように個人個人の力は大きくなく、また他大学に比べ練習時間なども決して十分で



2008 春季リーグ最終戦

はありませんが、チームとして他のチームに負けない力は持っていると思います。元気で仲が良く、全員が一致団結した時には、不思議と負けない雰囲気を作ることができます。試合の勝ち負け以上に、まずは「野球を楽しむ」ということを大切に、奈良教育大学の野球部らしい自分たちの野球をしたいと思っています。大学関係者の方、OBの方々、応援してくれる家族や友達など、周りの方々への感謝の気持ちを忘れず、次のリーグ戦も昨季以上の成績を残せるよう、他の大学に挑んでいきたいと思っています。

## 課 外 活 動

## 劇団 キラキラ座

### 輝こう

部長 糸井 茂裕

劇団キラキラ座とは・・・「人生は、楽しい方がいい」という信念を胸に、ただひたすらに走り続ける奈良教育大学のバラエティ制作工場である! 元々「舞台演劇がやりたい」という思いから生まれたキラキラ座ですが、近年では自主制作映画への取り組み、大学祭での本格的喫茶店の演出及び運営、歌とピアノを取り入れたちょっぴりミュージカルチックなお芝居など、舞台の幅をさまざまに広げています。旗揚げ以来、2009年をもって15周年を迎えようかという歴史の中で、「楽しいことがしたい!」という思いを抱いた数々の団員たちのキラキラとした輝きが、新たな道を照らしてくれているのでしよう。

舞台制作を進める上で大事なものは、技術やセンスに先行して、「こういうことがしたいんだけど、こうしたら良くなるんじゃないか」といった、思いの数々です。それが強ければ強いほど、ぶつかり合えばぶつかり合うほど、幕が降りた時に味わうことのできる感動や高揚感、言いようのないほどに強くなるものです。さて、受験生の皆さんは、大学入



2008 年度新人公演

学後に対して何かしら思いを持っていきますか? 大学という舞台もまた、主役であるあなたの思いの強さ、大きさによっていくらかでも色濃く演出でき、また逆に淡白なものにもなってしまうかもしれません。せっかくのキャンパスライフを、多くの可能性を開拓できる時期を、何となく過ごしてしまっている時期を、何となく過ごしてしまっている時期を、前向きに、自分自身の気持ちを解放してください、そして若いエネルギーを爆発させてください。私たち劇団キラキラ座の団員たちはそんな姿勢を大事にしながら、今日も舞台製作に励み、キラキラと輝いています。

# 大学の 仲間たち



和名 ヤマトシジミ  
学名 *Pseudoizeeria maha*  
分類 シジミチョウ科  
(鱗翅目, 昆虫綱)  
翅開長 21~24mm  
写真は翅の裏面が見えている

## ヤマトシジミ

小型のチョウとして、セセリチョウ科とシジミチョウ科の仲間が挙げられるが、セセリチョウ類はその形からガの仲間と思う人が多いであろう。従って、小型のチョウを見たらシジミチョウの仲間だと思っても、ほとんどが正解となる。本シリーズでは、赤い翅(はね)が目立つベニシジミと、翅表が青紫色(ただしメスは黒褐色)のツバメシジミをこれまでに紹介した。本種は、大きさも翅の色も後者のツバメシジミによく似ているが、後翅後端に尾のような突起を持たないので、これとは簡単に識別できる。本種の翅表面は薄い青あるいは青白色(ただしメスは暗褐色)である。裏面の地色は灰白色あるいは暗灰白色で黒斑が目立つ。翅を広げると21~24cmぐらいと小型の上に、丈の低い草の上など、ヒトの視線からすると非常に低い空間を素早く飛翔しているので、通常の歩行状態では認識しづらく、個体数が多い割にはその存在が知られていない。本種の幼虫は大学構内にも多いカタバミを食べて育ち、5月上旬から11月上旬にかけて、1年に最低でも4回は発生しているようである。



自然環境教育センター長  
前田喜四雄

URL <http://www.nara-edu.ac.jp/ECNE/index.htm>



## 奈良教育大学 広報誌

第29号 平成20年11月20日 編集/広報・情報公開委員会 発行/国立大学法人奈良教育大学  
〒630-8528 奈良市高畑町 TEL. 0742-27-9104 FAX. 0742-27-9141  
<http://www.nara-edu.ac.jp> [kikaku-kouhou@nara-edu.ac.jp](mailto:kikaku-kouhou@nara-edu.ac.jp)

本誌へのご意見・ご要望がございましたら、下記アドレスまでお送りください。  
【奈良教育大学 企画・広報室】 [kikaku-kouhou@nara-edu.ac.jp](mailto:kikaku-kouhou@nara-edu.ac.jp)